

令和元年度農高・農大就農促進対策事業（農高就農促進対策助成）

事業主体名 鹿児島県立鶴翔高等学校

1 目的

就農者の減少により農産物の生産現場では厳しい状況が続いている。農業が産業としての基盤を脅かしかねない重要な問題である。本事業の推進により、農業に対して興味・関心を生徒がより一層深め、職業としての意識を持ち、携わる生徒を育成することを目標とする。生産から販売、そして加工まで6次産業化を意識し、広く体験できる機会を与えることで、職業としての意識を持たせ農業関連への就職を増やしていく。上級学校への進学を目標とする生徒には、より高度な技術や理論を身につけ、先進的な農業の担い手として就農促進につなげていきたい。地域の小学校や中学校での普及活動を行うことで、早い段階から農業に親しみ理解する子供たちを増やしていき、農業への興味・関心を高めるとともに、本校への生徒募集にも繋げていく。

2 実施状況

(1) 地域貢献活動

12月23日、25日に阿久根市三笠の桐野地区20軒の紅甘夏生産農家で収穫実習を行った。この時期は、特に人手が不足しており「猫の手も借りたいほど」の多忙さとなるため、阿久根市農政課と連携して3年前から本校生が地域の農家に貢献できる活動として取り組んできている。毎年依頼される農家件数が増え、今年度は、農業科学科の1年生、2年生に加え、食品技術科の1年生も加わり延べで100人近くの生徒が貢献活動に臨んだ。本校では、果樹の実習が無く生徒には良い経験になることと、商品価値のない紅甘夏を有効利用できないかと生徒も模索しておりこれからの取組として期待が持てる。収穫実習の前には、北薩地域振興局の原口専門委員から事前講義を受け桐野地区の紅甘夏の歴史や収穫方法について学んだ。



地域貢献活動

(2) スマート農業体験学習

6月18日に水田圃場で直進アシスト自動施肥田植機の実演研修を農業科学科の生徒が体験した。水田の肥料成分を田植え機がセンサーで感知し肥料を投入するシステムと自動で直進する機能を持ち合わせた機械を体験した。また、8月9日には、ドローンによる薬剤散布の実演研修を受けた。生徒は、スマート農業の実演を体験することで、農業に対するとらえ方が変わってきている。スマート農業を積極的に取り入れた農業を行ってみたいという生徒も出てきている。



農業機械実演研修

(3) 販売実習

地域のイベントや販売会に積極的に参加し、自校の生産物のアピールをして販売を行った。販売会により多くの人と会話をする事でコミュニケーション能力が身につく、就職や進学に役立っている。



販売実習

3 今後の課題、取り組み

農業を取り巻く環境は日々変化している。時代の流れでスマート農業を活用した取り組みやGAP取得などの動きが広がっている。

今後は、率先してGAPやスマート農業の取り組みを進め地域に貢献できる学校にしていく必要がある。s